

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標目標の達成度	先行案件「非感染性疾患リスク低減事業」から継続して本事業1, 2年目でジョソール県ショドル郡にて確立してきた地域レベルのNCDs対策活動を、2018年8月よりクルナ管区の9ユニオンに展開してきた。それぞれの地域での達成状況は以下のとおりである。 【ジョソール県ショドル郡】 ジョソール県ショドル郡では、プロジェクトが育成した人材の協働、地域ぐるみの取り組みにより、対象地域住民の環境改善が推進された。 具体的には、健康診断キャンペーンは、保健施設、脆弱者が多いエリアなどを中心に253回（累計688回）実施され、11207人（累計37487人）が参加した。参加者のうち女性が占める割合は8割である。対象地域内全6000が地域保健活動の年次計画（Local Level Plan、以下「LLP」とする）に非感染性疾患（以下「NCD」とする）対策を組み込んでいる。プロジェクトが育成したNCDs対策ボランティアの数はコミュニティ・グループ（以下「CG」とする）メンバー610人、保健ワーカー176人、学校教師1,240人、ユニオン119人、村警察77人、地元グループ199人、女性グループ187人、計2608人と目標値（1,720人）を超えている。 同郡での活動は2017年8月よりプロジェクトの直接介入を減らし、フォローアップとモニタリングを継続、プロジェクトのインプットが減少した後の各活動の継続状況を検証した。その成果と教訓を、現行事業の対策の改善とクルナ管区9ユニオンへの普及活動に活かしつつ、持続発展性の向上に役立てきた。【クルナ管区内9ユニオン】 2017年8月からはショドル郡の成果をクルナ管区9ユニオンに普及を展開した。健康診断キャンペーンは、9ユニオンでCGおよびFWCで27回（累計37回）、村の中（脆弱エリア）で92回（累計102回）、その他あわせ合計153回（累計175回）実施され、男性1882人、女性6304人、合計8186人（累計9738人男性2219人・女性7519人）が参加した。また、全27のコミュニティクリニックがLLPにNCD対策を組み込んだ。LLPに組み込むまでの期間が短縮していることも特筆事項である。クルナ管区でのNCDsボランティア育成はコミュニティ・グループから開始されており、学校教師、ユースクラブ、女性グループに対する研修等を実施した。 【ジナイダ県カリゴンジ郡ライグラムユニオンでのNCDスクリーニング】 2017年に保健（家族福祉）省保健サービス局（以下「保健サービス局」する）の要請を受け、事業変更承認（28年度）を得て、ジナイダ県カリゴンジ郡ライグラムユニオン全戸調査を実施した。対象地域の健康状況や医療に関する課題の一部が明らかになったほか、本取り組みの教訓がバングラデシュ政府のマスタープランの活かされる見込みである。スクリーニングを受けた人たちが、リスクを認識したことでその後の活動（健康診断キャンペーン・砒素検査等）に主体的にかかわっていることから、スクリーニングが上位目標に影響を与えたと言える。 このように各事業目標は順調に達成され、上位目標である「健康的な生活スタイル推進の基盤がコミュニティ主体で構築される。」は達成される見込みである。

(2) 事業内容

本事業は、バングラデシュで疾病負荷が深刻化する NCDs の罹患および重症化のリスクを低減させるために、日本の生活習慣病対策の要素を取り入れながら先行案件の成果を展開し、3 年間で上位目標を達成する計画で実施してきた。

3 年次にあたる本年は、ジョソール県シドル郡内で 1 年次に育成した非感染性疾患対策ボランティアの数を増やすとともに（次に述べる（ア）と（イ）の活動を通じて）、環境改善のために次の（ウ）～（オ）で述べるような活動を推進してきた。

（ア）地域レベルの NCDs 対策活動の担い手を、「社会支援グループ」から、「コミュニティ・グループ」に移行するためのワークショップを開催する。

（イ）実地活動や研修を通じて「NCDs 対策ボランティア」を養成し、地域内の多様な組織を強化する。

（ア）と（イ）は 1 年次に実施した。

（ウ）（ア）と（イ）で育成した人材が協働し、脆弱層（特に女性、貧困者、患者）を主な対象として、地域ぐるみでの環境改善推進を支援する。

* 本項目はジョソール県シドル郡の進捗状況を記載する。

①CG が弱者に配慮した活動計画を作成し、健康診断キャンペーンを実施する。地理的(保健施設から遠い)・社会的(職業・宗教)に保健サービスを受けにくい人々に配慮して、特に対策が必要な地域として 178 のエリアを選定した。健康診断キャンペーンでは、健康診断キャンペーンは、コミュニティクリニック（以下「CC」とする）および家族福祉センター（以下「FWC」とする）で 81 回（1 年次からの累計 246 回）、村の中（脆弱エリア）で 133 回（累計 290 回）、その他あわせ計 253 回（累計 688 回）実施され、11207 人（累計 37487 人）が参加した。参加者のうち女性が占める割合は 8 割である。

②NCDs 対策ボランティアによる啓発活動

NCD 対策ボランティアは、様々な機会をとらえ、プロジェクトが作成した啓発教材を用いて、啓発活動を行っている。

実施者	参加者数		セッション数	
	今次	累計	今次	累計
保健ワーカー	109735	294,767	11,366	33,044
ユースクラブ	15,854	36,256	1728	2,926
宗教指導者	-	57,668	-	400
他	-	4,900	-	206
女性グループ	35315	35,315	5079	5079
合計	160,904	428,906	18,173	41,655

*1 モスク、*2 女性グループ、教師、ユニオン関係者についてはモニタリングを実施していない。

③中学校における健康教育プログラム

対象としていた 85 校の 164 人（累計生徒数 31,361 人）が健康教育を受けた。

④ターゲットエリア内の全 60CC、12FWC および 3 サブセンターが NCD の予防啓発と健康診断を開始した。

⑤健康診断の結果は全て CC のノートに記録をした。そのうち、見守りが必要な患者については、各保健施設において、フォローアップの必要な患者情報を登録し、その患者のフォローアップを進めている。保健ワーカーが日常業務を通じて、各家庭や保健施設等でフォローアップしており、これまでに 1746 人が保健教育・サービスを受けている。

⑥地方行政機関ユニオンおよび女性グループが中心となり NCDs を克服するための環境改善を開始した。3 年次にフォローアップ研修を実施した。

⑦CG や女性グループなど NCDs 対策ボランティアが中心となり、改良かまどの設置、運動習慣、水質検査等の環境改善を促した。水質検査は 361 基（累計 913 基）を検査した 改良かまどは 821 基（累計 1791 基）設置した。一般の人への予防効果の高い活動となっている。特に女性グループの活動は活発で、啓発活動を 35315 人対象に実施。周辺住民宅のかまどをオーナーと共に改良したり、NCD 患者に何らかのお世話をした。女性グループメンバー（17 人×20 人=197 人）のうち 100 人が自身のかまどを改良し、11 人が近隣で運動グループを結成した。

⑧保健施設が安全な水を確保することをコミュニティグループメンバーを含む NCDs 対策ボランティアが支援した。

ショドル郡保健サービス局より保健施設の井戸の修繕や掘削の要請があげられた。第 2 年次に、井戸 5 基の修復を行った。第 3 年次は 11 基の井戸掘削及び設置をした。継続利用に関する同意書を郡保健局と取り交わした。

（エ）先行案件と本事業の対象地域（ショドル郡）でモニタリングと効果検証を行う。

先行案件を含め 2013 年より 5 年半活動してきたジョソール県ショドル郡の最終のフォローアップ調査を 8 月より開始し、効果検証を実施した。

（オ）プロジェクトを通じて得られた教訓とスキルをクルナ管区の他のユニオンに普及。

* ジョソール県ショドル郡を除くクルナ管区の 9 ユニオンの活動を報告する

①(エ)で得られた成果・教訓を元に、保健サービス局（中央レベル、対象地域を管轄する郡・県・管区保健事務所）と、持続可能なモデルと成果の普及について協議をする。

保健サービス局の中央レベルにおいては、保健ワーカーを通じて NCD に関する保健教育の実施する件と、CC および予防接種会場（EPI）/サテライトクリニックにおいて、生活改善の推進と CC の活用推進に取り組む必要性について協議した。さらに、ヒ素検査や料理かまどの改善の推進をユニオン評議会事務所及び公衆衛生工学局とともに推進する必要性について進言した。

管区及び県レベルにおいては、フィールドレベルで認められた NCD 患者の抱える課題について協議している。さらに郡レベルでは、患者支援に関して保健ワーカーの定期的な訪問や助言などの働きかけを継続するように協議してきた。

②プロジェクトが健康診断ガイドブックを作成した。

1 年次に作成したガイドブックに、8 頁を追加し、スクリーニング実施方法など成果教訓、提言内容を追記して改定した。今年度の研修（ユースクラブ、女性グループ、教師）で配布した。ダッカレベルでのイベント、コミュニティ・ヘルス・ケア・システムのワークショップにも持参し、ボランティアの役割について議論をした。BMI や理想体重が示された表が見やすいと好評である。

③クルナ管区 9 ユニオンで研修等を実施する。

すべてのユニオンで、ユースクラブ、女性グループへの研修を実施した。中学校での健康教育プログラムに関しては、教師等への研修は対象校 50 校で終了し、うち 46 校(男子 6,921 人、女子 8,134 人、合計 15,055 人)に対して NCD に関する保健授業を実施した。

④ クルナ管区 9 ユニオンで健康診断キャンペーンを実施する。

関係機関の協力により 9 ユニオンで CC および FWC で 27 回（累計 37 回）、村の中（脆弱エリア）で 92 回（累計 102 回）、その他あわせ合計 153 回（累計 175 回）実施され、参加者は合計 8186 人（累計 9738 人）男性 1882 人（累計 2219 人）、女性 6304 人（累計 7519 人）にのぼった。

1 月 27 日には砒素汚染のひどいシャトキラ県タラ郡にて砒素中毒患者の発見を主眼においた健康診断キャンペーンを実施した。

⑤ セミナー実施や他の機会を通じて成果を普及する。

バングラデシュ政府の NCD 政策を策定するためのワークショップにて、患者スクリーニングプログラムの進捗状況及び結果とともに課題や改善ステップ、CC や郡病院の人的資源の現状等についても発表した。

バングラデシュ首相が第 73 回国連総会の NCDs ハイレベル会合に参加し、同国の SDG 達成へのステップにおける NCD 対策の進捗状況を言及する予定である。これにあたり、連携協定を交わして保健サービス局とプログラムを推進している当団体に対して、情報共有の依頼があり、本事業の成果を記載した報告書を提出した。

2019 年 2 月 27 日本事業の集大成として「Final seminar on Strengthening Community Capacity for Non-Communicable Disease Screening and Prevention in Khulna Division」をダッカで開催した。開催者はバングラデシュ政府保健家族福祉省の保健サービス局 NCD 対策課、協力 Asia Arsenic Network と日本外務省という形での実施となった。

⑥ 最終報告書を作成した。

⑦ NCD スクリーニング調査を 1 地区で実施する。(2017 年 8 月 23 日に事業変更承認申請書提出済み)

現地政府保健省は、第 4 期保健セクター計画の中で非感染性疾患に関する業務をまず 200 郡で開始する予定を立てている。対象を 25 歳以上の男女としているものの、具体的な実施方法を決定するまでには至っていない。担当の保健サービス局非感染性疾患対策課は、基礎調査及び試行的な実施をするにあたり、非感染性疾患対策を 2013 年から実施している当団体に協力を要請してきた。外務省との協議の結果、プロジェクト対象地域の 1 ユニオン（ジナイダ県カリゴンジ郡ライグラム）で 2017 年 11 月よりスクリーニングすることになった。

	全住民	25 歳以上	測定数	未測定数
男性	11,607 人	6,491 人	4,439 人 (68.4%)	2,052 人 (31.6%)
女性	11,755 人	7,277 人	7,011 人 (96.3%)	266 人 (3.7%)
合計	23,362 人	13,768 人	11,450 人 (83.2%)	2,318 人 (16.8%)

継続的に訪問しているが、外で仕事をする男性に会うことは容易でなく約 3 割の男性が未測定である。

	高血圧 (非服薬者+服薬者)	服薬者数	服薬者のうち高血圧
男性	1,177 人 (26.5%)	340 人	231 人 (67.9%)
女性	1,901 人 (27.1%)	655 人	478 人 (73.0%)
合計	3,078 人 (26.9%)	995 人	709 人 (71.3%)

測定者のうち、最高血圧が 140mmHg 以上または最低血圧が 90mmHg 以上であった人は、3,078 人 (26.9%) であった。

測定者のうち、24 時間以内に抗血圧薬を服用していた人は、995 人で、そのうち 70% 以上の患者の血圧は適切に管理されていなかった。(最高血圧が 140mmHg 以上または最低血圧が 90mmHg 以上)

	低体重	標準	過体重	肥満度 1	肥満度 2	肥満度 3
男性	717 人 (16.2%)	2,882 人 (64.9%)	723 人 (16.3%)	73 人 (1.6%)	19 人 (0.4%)	6 人 (0.1%)
女性	810 人 (11.6%)	3,809 人 (54.3%)	1,898 人 (27.1%)	391 人 (5.6%)	49 人 (0.7%)	30 人 (0.4%)
合計	1,527 人 (13.3%)	6,691 人 (58.4%)	2,621 人 (22.9%)	464 人 (4.1%)	68 人 (0.6%)	36 人 (0.3%)

女性は、低体重の割合で男性より下回り（女性 11.6%、男性 16.2%）、過体重以上の割合で男性を上回っている（女性 33.8%、男性 18.4%）。

2018 年 10 月末にジナイダ県カリゴンジ郡病院に 62500 個血糖値測定用の検査用紙が届き、ライグラムユニオンの 12000 人を対象に一斉検査を実施することになった。9 日間で 40 カ所でキャンペーンを実施し、対象人口の 43% をカバーする

ことができた。血糖測定は 5,848 人が実施し、18%が高血糖、14%やや高い結果となった。

Range	男性	割合	女性	割合	全体	割合
< 6.0	1,016	67%	2,959	68%	3,975	68%
6.1 - 6.9	211	14%	636	15%	847	14%
7.00 - 30.00	290	19%	736	17%	1,026	18%
Total-	1,517	100%	4,331	100%	5,848	100%

2019 年 1 月 29 日にスクリーニングワークショップを実施し、カリゴンジ郡郡保健局長を中心に成果を共有した。

(3) 達成された成果

事業全体の裨益者

(ア) コミュニティ・グループ (CG) に地域レベルの NCDs 対策活動が移行される。

状況：1 年次に終了

(イ) NCDs 対策ボランティアが育成され、地域内の多様な組織が NCDs 対策のために強化される。

育成されたボランティア数：計 2,179 人

① NCDs 対策の実施者となる CG メンバーの数

達成目標：1 年次 240 人 (60CG×各 4 人)

2 年次 180 人(計 420 人)

達成状況：610 人 (ワークショップ参加者は 685 人) が健康診断キャンペーンに主催者として参加 (後方支援含む)。

② NCDs 活動を推進する保健ワーカーの数

達成目標：1 年次 124 人

2 年次 31 人(計 155 人)

達成状況：170 人 (研修を受けた 176 人のうち、6 人は定年退職した)。啓発活動、健康指導、レファラール、フォローアップなどを実施。データ管理や部下の指導を行う管理職を含む。

③ ユニオン、学校、ユースクラブ等で活動する健康推進ボランティアの数 (研修受講者は計 1,525 人を予定)

達成目標：2 年次 1,151 人

達成状況：1822 人

組織・グループ名	人数
ユニオン評議会	119 人
ユニオン評議会村警察	77 人
女性グループ	187 人
学校教師	1,240 人
ユースクラブ/コミュニティヘルプ・グループ等	199 人
計	1,822 人

(ウ) (ア) と (イ) で育成した人材が協働し、脆弱層 (特に女性、貧困者、患者) を主な対象として、地域ぐるみでの環境改善推進を支援する。

①各ユニオンが健診キャンペーンを 30 回ずつ実施する (15 ユニオン)

達成目標：1 年次 10 回（全 15 ユニオン）

2 年次 10 回

3 年次 10 回

達成状況：全 15 ユニオンで 30 回以上達成（最低 40 回、最高 51 回）

ジョソール県ショドル郡内の健診キャンペーン実施状況

ユニオン	1 年次		2 年次		3 年次		累計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
旧4ユニオン								
Arabpur	16	835	6	474	18	705	40	2,014
Basundia	15	876	10	426	17	810	42	2,112
Churamankati	15	621	11	537	17	631	43	1,789
Diara	15	628	8	450	19	785	42	1,863
新11ユニオン								
Chanchra	19	1,380	13	683	15	655	47	2,718
Fathepur	18	1,089	15	762	15	710	48	2,561
Haibatpur	16	1,178	12	636	17	699	45	2,513
Ichhali	18	1,289	16	878	17	796	51	2,963
Kachua	18	1,182	14	787	17	817	49	2,786
Kashimpur	17	967	11	693	17	691	45	2,351
Labutala	15	1,116	10	665	17	827	42	2,608
Narendrapur	19	1,309	13	777	17	791	49	2,877
Noapara	17	1,039	15	781	16	722	48	2,542
Ramnagar	18	1,363	14	824	16	760	48	2,947
Upasahar	17	1,259	14	776	18	818	49	2,853
計	253	16,131	182	10,149	253	11,217	688	37,497

②健康教育をうける中学生の数

※ショドル郡 11 ユニオンの 85 校約 4.1 万人

※計画では 92 校であったが、実際には 85 校であった。

達成目標：1 年次 24,600 人

2 年次 36,900 人(累計)

達成状況：1 年次は 26,541 人に実施した。2 年次 4,656 人と今年次 164 人累計 47,987 人に健康教育を実施した。

③NCDs 対策を行うコミュニティクリニックの数（全 60 CC 8 割以上）

達成目標：1 年次 38CC

2 年次 45CC（累計）

達成状況：全 60CC が地域保健計画に NCD 対策を組み込み実施している。

④環境改善（ヒ素検査プログラム実施、改良かまど・家庭菜園・運動習慣形成の推進）を実施するユニオン数（全体数 15）

達成目標：1 年次 10 ユニオン

2 年次 13 ユニオン（累計）

達成状況：全 15 ユニオンで水質検査や改良かまど設置を推進した。

⑤健康診断キャンペーンを受ける女性の数

達成目標：1 年次 7,500 人

2 年次 7,500 人

達成状況：女性参加者は、1 年次 13,041 人（253 回実施、全参加者 16,131 人）であった。2 年次は、8,117 人（182 回実施、全参加者 10,149 人）であった。3 年次は 8672 人（253 回実施、全体 11,207 人）で 3 年間では 29,830 人（688 回実施、全体 37,487 人）で参加者の 80%が女性であった。

⑥安全な水を確保している保健施設の割合

達成目標：3 年次：9 割

達成状況：96%（75 基中 72 基が稼働）

プロジェクトで修理および再掘削した井戸は 16 基である。それ以外に地元の努力で 2 基の井戸が再稼働した。ただし、コミュニティクリニックの施設建設時に設置した井戸には欠陥が多く、今後にも不稼働になる可能性がある。

プロジェクトは、コミュニティクリニック強化を担う Community Based Health Care System の会議に参加した折、この状況を報告するとともに技術的配慮の重要性について提言を行った。

確認方法：郡保健所からの報告

（エ）先行案件と本事業を通じて得られたデータの分析結果が、本事業の活動に活かされる。

達成目標：先行案件の旧 4 ユニオンと、本案件で新たに対象地域となる 11 ユニオンの「住民の意識・行動および地域の保健サービス」に関する差が数値で示される。

先行案件旧 4 ユニオンでは、各ユニオンにおいてプロジェクトスタッフ 3 名およびプロジェクトがイニシアチブをとり新たに形成した Social Support Group(SSG)20 名が中心となって、ユニオン評議会や CC や FWC などのコミュニティレベルの保健施設との連携を深めながら活動を展開した。SSG メンバーには、地域有力者や保健行政に強い関心を持つ住民の他、小中学校の教師、村医者、宗教指導者および学生等が選ばれた。さらにコミュニティにおいて活動の進捗や理解等のフィードバック/モニタリングをするために NCD 患者家族等 20 名で構成される Community Group(CG)を形成して進められた。

実施時期	2015 年 10 月	2016 年 4 月	2017 年 2 月	2018 年 9 月
地域	旧 4 ユニオン	新 11 ユニオン		
回答者数	479 人	1100 人	550 人	1100 人
NCD に対する知識	91.0%	0.8%	76.7%	88.5%
NCD の名前（1 つ以上）	90.8%	0.8%	77.1%	88.5%
危険因子（1 つ以上）	98.5%	6.5%	87.6%	93.0%
かけ塩の習慣なし	58.7%	7.0%	42.4%	34.4%
ヒ素検査実施	82.0%	2.6%	9.5%	26.3%
改良かまどの設置	35.0%	7.7%	19.8%	28.3%
血圧測定習慣	78.0%	9.6%	66.2%	88.6%
野菜摂取量	337 g	235 g	329g	386g

一方、現行案件新 11 ユニオンでは、SSG のようなプロジェクトが形成したグループを活動の中心に置くのではなく、プロジェクト終了後の成果の継続性を考慮し、パ国政府保健システムの積極的な活用と既存のグループを有効的に活用することとし、先行案件の経験を CC/CG と共有する活動から開始した。またプロジェクトスタッフの配置を各ユニオンに 3 人から 1 人に減員し、よりコミュニティの自主性を高めることを優先的に計画された。

達成状況：効果検証を行うことができた。

旧 4 ユニオンに比べ、新 11 ユニオンはプロジェクトの介入を最低限に抑え、政府の保健ワーカー・保健施設、政府が設置を義務付けているコミュニティ・グルー

ブが中心になって活動を推進したものの、同様に生活習慣の改善を確認することができた。また、啓発活動および健康診断キャンペーンを含む保健活動も、図が示す通り、4 ユニオン、11 ユニオンともに実施することができた。ボランティアの育成においても、ボランティアの選定、強化方法、教材活用などの経験・教訓を振り返り、その後の活動に活かしたことから、効果的に成果を上げることができたと考えることができる。11 ユニオンでは、1 年目は新鮮に受け止められ、活動が活発であるが、2 年目に活動が停滞する傾向がみられるため、これを克服するための介入が必要と言える。

(オ) プロジェクトを通じて得られた教訓とスキルをクルナ管区の他のユニオンに普及する

① クルナ管区普及対象ユニオンにおいて、各ユニオンが健診キャンペーンをプロジェクト期間中に計 5 回（今年度 3 回）実施する。

達成目標：各ユニオンで 5 回以上(9 ユニオン)

2 年次 各ユニオン 2 回ずつ

3 年次 各ユニオン 3 回ずつ

達成状況：全 9 ユニオンで 5 回以上達成（最低 16 回、最高 24 回）

県	郡	ユニオン	2 年次		3 年次		累計	
			回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
Chuadanga	Damurhuda	Howli	3	235	15	847	18	1082
Magura	Salikha	Shtakhali	2	197	22	1253	24	1450
Kustia	Mirpur	Ambaria	3	207	15	749	18	956
Bagherhat	Kachua	Raripara	2	127	19	1115	21	1242
Khulna	Dakope	Bajua	2	140	17	929	19	1069
Narail	Kalia	Babra Hachla	2	121	18	912	20	1033
Satkhira	Tala	Jalalpur	5	420	15	997	20	1417
Meherpur	Gangni	Shaharbat	3	105	16	665	19	770
Jhenaidah	Kaligonj	Raygram	0	0	16	719	16	719
合計			22	1,552	153	8,186	175	9,738

関係機関の協力により健康診断

キャンペーンは、9 ユニオンで CC および FWC で 27 回（累計 37 回）、村の中（脆弱エリア）で 92 回（累計 102 回）、その他あわせ合計 153 回（累計 175 回）実施され、男性 1882 人、女性 6304 人、合計 8186 人（累計 9738 人男性 2219 人・女性 7519 人）が参加した。

②NCDs 対策を行うコミュニティクリニック（CC）の数（全 27CC 8 割以上）

達成目標：2 年目 6CC

3 年目 17CC

確認方法：普及地域の CC の活動記録、プロジェクトのモニタリング記録

達成状況：全 27CC が地域保健計画（LLP）に NCD 対策を入れて実施中

③健康診断ガイドブックが完成する。

達成目標：1 年目 1500 部

2 年目 1500 部（修正版）

達成状況：2 年次までに 3000 部を作成し、今年度研修やセミナーで配布した。

④NCD スクリーニング調査の教訓を健康診断ガイドブックと報告書に反映する。

確認方法：ガイドブックと報告書

	達成状況：昨年度作成したガイドブックを8頁増やし、以下の内容を組み込んだ。バングラデシュ政府（保健サービス局）のNCD患者の同定と管理に関する最新の戦略、SDGsのひとつユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向けたNCD対策推進のために配慮すべき4つの視点（Accessibility, Affordability, Availability, Acceptability）、およびコミュニティクリニックでのNCDのサービスである。さらに本事業の経験を踏まえ、 ◇ 保健ワーカー監視のもと予防接種会場（EPI）やサテライトクリニックで健康診断キャンペーンを実施する意義 ◇ 住民のリスク回避のためのマルチセクターアプローチの重要性 ◇ リスクの早期発見のためには学校保健にNCD教育を加えることの有効性 などの提言を追記した。 また、本スクリーニングは、スマートフォンのアプリを活用し、オンラインで入力・集計する方法をとったが、本事業で実施したNCDスクリーニングの経験をもとに全国スクリーニングに向けたマスタープランを作成するとの言質を得た。 バングラデシュ首相が第73回国連総会のNCDsハイレベル会合に参加し、同国のSDG達成へのステップにおけるNCD対策の進捗状況を言及した。この一環として、連携協定を交わして保健サービス局とプログラムを推進している当団体に対して、情報共有の依頼があり、本事業の成果を記載した報告書を提出し、バングラデシュ政府は同会合にて非感染性疾患リスク発見を目的にした家庭訪問について発表を行った。（これまで家庭訪問型の調査はどの団体も実施していない） 世界保健機構およびNational Research Instituteは糖尿病調査の方法を参考にしたいと表明している。バングラデシュ政府は、本スクリーニングはバングラデシュで初の取り組みであり、この結果をInternational Journalに研究者の協力を得て投稿する旨を検討している。 本事業はSDGs持続的開発目標との関連においては、特に目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を推進する」との関連が強い。具体的には 3.4: 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健および福祉を促進する。 3.9: 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる。 3.a: すべての国々において、タバコの規制に関する世界保健機関枠組み条約の実施を適宜強化する。 である。 本事業は対象地域内の主なNCDsのリスク要因（①不適切な食事、②運動不足、③タバコ類及び室内空気汚染、④砒素による水質汚染）を取り上げ、これらのリスクの低減/排除を推進し、健康の維持・増進に努めている点において持続的開発目標の達成に貢献している。
（4）持続発展性	【ソフト面】 2017年7月に実施団体アジア砒素ネットワークは政府保健サービス局と連携協定（MOU）を交わし、継続的な協力関係を書面で確認することができた。 本事業の集大成「Final seminar on Strengthening Community Capacity for Non-Communicable Disease Screening and Prevention in Khulna Division」を2019年2月27日にダッカで実施したが、主催バングラデシュ政府保健家族福祉省の保健サービス局NCD対策課、協力Asia Arsenic Networkと日本外務省という形での実施となった。本事業で実施したNCDスクリーニングの経験をもとに全国スクリーニングに向けたマスタープランを作成するとの言質を得た。本事業の成果を保健サービス局が政策に反映させる可能性は高く、持続発展性は期待できる。 フィールドレベルでは、対策を継続できる人材を2,500人以上育成してきたこ

と、ガイドブックを作成し配布していること、地域保健計画（LLP）に組み込まれたことから今後も NCD 対策が根付くことが期待できる。

【ハードの持続可能性】

本事業で修復したショドル郡内の保健施設（CC、FWC およびサブセンター）における井戸の維持管理は、保健局の監督の下、各保健機関、コミュニティ・グループが実施する計画である。